

第 1 1 回 当別町教育委員会定例会議事録

日 時 平成 2 7 年 9 月 1 5 日 (火) 午後 2 時 0 0 分
 場 所 役場 3 階 中 会 議 室
 出席委員 白井委員長、武岡委員、寺田委員、小林委員、本庄委員
 参 与 野村教育部長、山崎管理課長、村上管理課主幹、水谷管理課主幹、
 高島学校教育係長、櫻田一貫教育推進係長、上島社会教育係長、
 春田総務係主査
 傍 聴 者 2 名

<p>【開会の宣言】 白井委員長</p>	<p>ただ今、出席委員数 5 名、定数に達しておりますので、平成 2 7 年第 1 1 回当別町教育委員会定例会を開催致します。</p>
<p>白井委員長</p>	<p>本会議に傍聴を希望する申し出がありましたので、これを許可しても宜しいでしょうか。 (「異議なし」の声) 傍聴を許可致します。 暫時休憩致します。 (傍聴者入室) 再開致します。</p>
<p>【議事日程】 白井委員長</p>	<p>日程については、各委員に配付しております日程表により議事に入ります。</p>
<p>【日程第 1】 白井委員長</p>	<p>日程第 1、報告第 1 号を上程致します。 提案理由の説明を求めます。 教育部長。</p>
<p>教育部長</p>	<p>(提案理由の説明) ただ今、議題となりました報告第 1 号、小中一貫教育先進地視察研修について、提案の説明を申し上げます。8 月 2 5 日から 2 6 日まで小中一貫教育を実践している先進地であります白糠町へ視察研修を行いましたので、これを報告し、ご承認をいただこうとするものであります。宜しくご審議をいただきまして、ご承認をお願い致します。 なお、詳細につきましては、管理課主幹から説明致します。</p>

白井委員長	管理課主幹。
管理課主幹	<p>先進地視察として、8月26日に白糠町教育委員会に伺い、意見交換等を実施しましたので、ご報告致します。スライドの方を用意しておりますので、そちらを見ながら、説明させていただきます。</p> <p>最初に、今回視察を行いました白糠町ですが、人口約8千6百人。財政規模は、平成27年度当初一般会計で68億円。うち、教育予算が11億7千万円となっています。なお、今年度については、庶路地区の一貫校施設整備分として5億6千万円が計上されており、教育予算11億7千万円に含まれています。白糠町は、大きく3つの区域に分かれており、役場があり、海岸に近い「白糠地区」、釧路寄りの海岸にある庶路と西庶路をあわせた「庶路地区」、そして、内陸に入った「茶路地区」があります。</p> <p>町立の学校は、ただ今説明しました地区ごとに1小、1中が設置され、計3小、3中設置されています。町立の教育施設としては、この他、庶路地区に幼稚園が1園設置されています。なお、白糠地区には私立幼稚園が1園あり、保育園は、白糠、庶路、茶路、私立の4園あります。</p> <p>それでは、白糠町の教育について、白糠町からご説明いただきました内容を簡単に報告致します。</p> <p>最初に、白糠町の政策として、3つの大きな柱があり、そのうち1つが教育と位置づけられています。教育分野の具体的な政策としては、大きく「ふるさと教育」と「語学教育」があるとの説明を受けました。</p> <p>ふるさと教育については、平成9年から実施しているもので、白糠に誇りと愛着を持つ人を育てる、また、よりグローバルな視点で人間形成を目指すことを目的としています。さらに、21世紀には、コミュニケーション能力が、必須の力になる、ふるさとを知ることは、コミュニケーション能力を育てる源となる、こういうことから、語学教育につながっています。</p> <p>語学教育については、英語のほか中国語を学習しています。英語については、世界の共通語として、中国語については、中国の13億人にもなる人口規模と経済進出を将来の町への企業誘致につなげていく、さらに、北海道の環境資源を生かし、中国から北海道に来られる観光客などを獲得していくことも学習する理由として掲げられていました。語学教育の具体的な取り組みですが、町でALT3名を配置しています。2名がアメリカ人で、1名は中国人になります。受験対策の英語ではなく、使える英語、つまり、「聞ける」、「話せる」ことを目的として、各学校に入っています。</p> <p>また、全ての小・中学校で「ECタイム」を実施しています。これは、学ぶ対象が「イングリッシュ・チャイニーズ・タイム」、培いたい力として「エンジョイ・コミュニケーション・タイム」というネーミングで、小学校から中学校まで系統だった教育として、教育課程特認校の認可を</p>

受け、全町で実施されています。

この他、外国語に「慣れる」から「使える」を目指し、ふるさと教育と関連し、ふるさと自慢を英語で発表する場を設けたり、外国人との交流の場を設定する、これは、具体的には、近隣の弟子屈町のALTに来ていただいているとのことでしたが、普段と違う外国人の方と交流をしたり、あるいは、カリキュラム検討委員会の中で大学の先生から提案されたということですが、将来的には、海外への修学旅行についても、今後、実施できるよう検討を進めているという説明がありました。

また、地域特有のこととして、町で、先住民族の白糠アイヌと台湾の少数民族タイアル族との間で交流を進めていることから、将来的には、台湾の少数民族と中国語を使っての交流が行えるようなことも考えているようです。

資料、5ページになります。白糠町の小中一貫教育のこれまでの流れですが、大きく2つのファクター、流れがありました。まず、一つ目が耐震基準を満たさない校舎があったということです。今回、一貫校をつくる庶路小学校の校舎が昭和51年改築、庶路中学校の校舎が昭和48年改築で、40年近く経過しております。白糠町の教育施設の耐震対策については、平成19年度に耐震化に伴う町有施設の調査を機に議論が本格化し、平成21年度の学校施設耐震判断で、庶路小学校、庶路中学校、そして、白糠中学校第二体育館の3施設が基準値を下回っており、耐震補強が課題としてあがっていました。平成23年度に白糠中学校体育館の補強が先行して行われ、平成24年度に庶路小学校、庶路中学校に着手することになっていました。しかしながら、平成23年に東日本大震災が発生し、東北地方で大きな津波被害が発生し、白糠町でも相当の津波被害があったこと。学校が、数メートルという非常に標高の低い場所に立地し、付近に避難可能な高い建物や高台がないことから、児童生徒を守るため、さらに地域の安心・安全の確保と避難施設の機能を担うため、耐震補強から高台移転に舵を切ったということがあげられます。

それから、二つ目として、従前から小中連携に取り組んできたものの、なかなかうまくいかない状況にあったこと、そうした中、校舎一体型一貫校をつくることになり、白糠町の教育の基軸となる「ふるさと教育」を強力に推進していくため、庶路及び西庶路の地域特性を活かした「小中一貫教育を取り入れることで一層の教育の質的向上が図られると判断した」との説明がございました。

冒頭で、3地区に1小、1中があると説明しましたが、町全体で小中一貫教育を推進していくということになり、それぞれの地区で3つの施設形態で実施していくという説明がございました。まず、一体型として庶路地区の1小、1中、分離型として白糠地区の1小、1中、併置型として茶路

地区の1小、1中になります。

児童生徒数は、ここに記載されているとおりで。一体型を目指している庶路地区では、小・中学校あわせて180名程度となります。

小中一貫校設置に向けて取組を進めているわけですが、課題として、7つのことを掲げられていました。記載のとおりですけれども、この中で、例えば、「教職員の意識改革」では、子どもたちのため、プラス先生方のため、ということで進めている、「新しい教育をつくっていくということに自分たちは足をかけているんだ、そういう考え方の先生を増やしていくのが非常に大切である」との説明を受けました。

人員の配置についても、例えば、「義務教育学校であれば、校長1名、小・中学校で教頭1名なのか、一体型だから教頭は1名でいいのか」など、考えなくてはならない課題はたくさんあるとのことでした。

スケジュールについては、こちらのスライドに記載されているとおりで。施設一体型一貫校ができるということを契機にして、なかなかうまくいっていなかった小中連携から一気に小中一貫へ、しかも全面的に移行するスケジュールになっています。

「ふるさと教育」という、町としての柱があり、平成9年度から実践してきている実績があることもありますが、カリキュラム編成に関して、北海道教育大学釧路校との協定により、多くの教授が入ってくれているということも、このスピードにつながっていると考えられます。教育大学からは、平成27年は3名の先生がカリキュラム編成の会議に入っていたいて、様々なアドバイスをいただいたという説明がありました。

施設外観については、完成の予定は、写真のとおりになっております。写真の手前側、この部分は、認定子ども園となっており、複合の施設になります。新施設の延べ床面積内訳は、小・中学校6,316㎡、認定こども園が1,124㎡、武道場を含む小・中兼用の屋体が1,830㎡と計画しています。なお、図面につきましては、詳細の説明は省略いたしますが、こちらが、1階、2階、3階となっています。1階ですけれども、黄色の部分が認定こども園になっておりまして、それ以外の部分が学校となります。

最後に事業費ですが、認定こども園を含めて48億円となります。概算ですけれども、4億円が認定こども園の経費になりますので、それを差し引いた額が小中一貫校整備に係る経費になります。

校舎については、林業地帯であることから地元材を採用し、暖房については、木質ペレットを使用しているということです。また、釧路地方は、非常に日照時間が長いという特性がありますので、太陽光パネルを設置して、文科省の補助の基準である20kWではなく、50kW、2.5倍の大きさのものを設置し、エコパイロットスクールとして2.5%かさ上げの補助を受けているとの説明がありました。

<p>白井委員長</p>	<p>簡単ではありますが、8月25日から26日にかけて、白糠町教育委員会に伺い、先進地視察を行いましたので、報告します。</p>
<p>武岡委員</p>	<p>ただ今、提案理由の説明がありましたが、質疑等を求めます。武岡委員。</p> <p>一緒に行かせていただき、私見になるかと思いますが、今の話に含まっていた部分、私の感じた部分について、ちょっとお話をさせていただいて宜しいでしょうか。</p> <p>教育長さんのお話を伺っていて、道教委とか局との連携が非常に緊密だということ、人事に関しても、その他のことに関しても、それが1点目です。それから一貫校を実現するための人材登用についても非常に配慮している。積極的に教員に来ていただく、というようなことだと思うんですけども、理解をさせ、そして、役に立つ人を育てていこうとする町の雰囲気を感じました。3つ目は、教育委員会の中に学校現場を熟知している教員あがりのキーマンの指導室長がいらっしゃったということ、これは各町村によっては、やり方は色々だと思うのですが、白糠町は、前教頭さんだったと思うのですが、中学校の教頭さんを指導室長に迎え入れ、教育長の片腕として学校を頻繁に回らせて、理解を深めさせていたという点が、非常に印象に残っております。最後は、管理課主幹の話にもありましたけれども、ここであれば、あいの里の教育大学の先生方に応援をしていただかない手はないな、色々な分野の先生が揃っていると思いますので、これからのことになるとと思いますが、そんな働きかけも必要なのかな、と思いました。</p> <p>最後に、単に一貫校ができればいいのではない、というふうに強く思いました。白糠では、ふるさと教育というふうに言っておりましたが、当別の場合には、単に一貫校をつくるだけでなく、ちょっと大げさな言い方になりますが、どんな当別町の未来像を描くのか、私は、若い人たちが住んでみたいなというまちづくりをしていかければ、どんどん人が離れていってしまうんじゃないかな、小林委員の話にもありましたが、幼稚園とか認定保育園の子どもたちの保護者の方が札幌に移ってしまうという現状をなんとか食い止めなければならない、そうすると教育立町しかないな、と思っております。</p> <p>当別に住めば、すべての面にわたって、学力だけではありません、自然環境、人的な環境、質の高い教育が受けられる、ということが実感として伝わるような環境づくりをしなければいけない、そのための1つの手段として小中一貫校をつくる必要があるんじゃないかなと思っています。</p> <p>併せてですね、これからの学校というのは、学校だけで教育はできない、学校と保護者とか地域の方々が知恵を出し合って、学校運営に意見を反映させていく中で協働しながら、子どもたちの豊かな成長を支えていく、という</p>

	<p>ふうにしていかなければいけないというふうに思って、とすると、現在は、一貫校の取り組みを中心に進めていこうとしておりますけれども、私は、地域とともにある学校を考えるためには、コミュニティースクールの取り組みを併せてしていく必要がある、というふうに強く感じました。ネットなんかで調べますと、登別市は全市をあげてやっておりますし、ほかにも10校ぐらいだったと思いますが、進んではいないんですが、まだ文科省が予算をつけて一所懸命進めていこうとしている段階で早く手を挙げてですね、ほかのところの動きを待っては、後手に回ってしまうので一貫校の取り組みと併せてコミュニティースクールの取り組みについても、一緒に平行して進めて欲しいと強く思いました。それが、私が行かせていただいた、最後に感じた感想です。</p>
白井委員長	<p>ほかの委員さん、今の話を聞いて感じたこと等はありますか。 寺田委員。</p>
寺田委員	<p>「コミュニティースクールと併せて」とのお話でしたが、白糠町の視察で具体的になされている、というものがあったのでしょうか。</p>
白井委員長	<p>管理課主幹。</p>
管理課主幹	<p>今回の説明の中では、コミュニティースクールについては、具体的な説明はありませんでした。</p>
白井委員長	<p>ただ、教育長の言葉の中に「多くの方々の力を借りることが成功につながる」ということが明言されておりますので、そういうイメージも抱かれておられるのかな、というふうには感じました。 ほか、何か感じられたこと、意見等あればお受けしますが、いかがですか。 寺田委員。</p>
寺田委員	<p>一緒に行けなくて、申し訳なかったのですが、実際に行かれた方々の視察をしたことで、感じたことをぜひ、お聞かせいただきたいと思います。</p>
白井委員長	<p>一貫教育推進係長、何か感じたことは。</p>
一貫教育推進係長	<p>白糠町は、海岸沿いということが一番大きかったのかな、それで、町全体がそういう方向に向いた、というところが一貫校の設置に向けた原動力になったのかなというように感じております。それに比べますと、ウチの町は、まだ災害等に対しての、白糠町の現実的な部分として、あまり深くないのか</p>

	<p>など、という思いを感じましたが、それも1つではあります。学校の現場の先生たちの意識改革というところが課題としてあげられていたと、ということを感じながら、仕事をしておりますので、白糠町さんの方が一歩進んでいるということもありますので、今後とも白糠町の方と意見交換を重ねながら同じ方向を向いて進んでいければ、というふうに思いました。</p>
白井委員長	<p>管理課長、何かございませんか。</p>
管理課長	<p>今回の研修の中で一番感じたことは、ハードの面、白糠町自身が優先順位をつけながら、「一体型の小中一貫校をつくるんだ」という、町長部局との連携を密にしながら、そこに進むということで町として意思統一されているものですから、それについては、ぜひ参考にしながら進めていきたいと思いません。以上です。</p>
白井委員長	<p>私は、この間、挨拶にも申し上げましたように15歳の子どもの出口共有と言っていましたけれども、そこをみんなが共有していることが素晴らしいことだなど、思いました。どういう人材をこの町でつくっていくのか、ということ、先ず、共有しなければ、なかなか方向性が定まらない、それも課題であるのですが、そこが大事なところであるという、お話しが非常に印象的でした。それから、先生方に対しては、「新しい教育を皆さんの手で手がけていこう」と働きかけている、啓発・啓蒙しているということ、それと同時に先進地視察は委員会が行くということも大事なのですが、どんどん研修の場として先生方に見てもらおうということ、今まきに行っているという話しも印象的でした。どれを実行するにも一人の情熱あふれる、鍵を握るけん引者がいるということが非常に進める側の委員会としても心強い存在でもありますし、また、そういう人がいなければ逆になかなか成せるものではないのかな、というような印象を強く受けました。それと、11億7千万円もの教育予算は、全体予算の15%を超えておりますし、5.6億円が改修工事分だとしても、それでも全体予算の中で占める割合は高いと思いません。そういうことが町の一つの夢であったり、希望であったりするところに、こういう金額計上がなされることは、うらやましいなと率直に感じたところです。</p> <p>教育長も何か、あれば。</p>
本庄教育長	<p>先ず、第一に感じたことは、管理課長の話しにもあった、「これをつくる」という、何よりもまして、他の公共事業をさておいて、そういうことで進めているというのが印象的でした。災害にかかる予算も含まれているので、ウ</p>

	<p>チには当てはまらないのですけれども、それにしてもうらやましいと、教育課程等については、学習指導要領というのがあって、それが基本となってやられているので、全国どこを見てもそんなに大きな変わりはないんだと捉えました。ただ、ここは教育課程の特区校の指定を受けているので、さっき出たふるさとの教育に時間をかけられるというようなことがあります。本町も当別学と名づけて、ふるさとに対する知識、理解、愛着を当然やらなければならないことがあるので、参考にしたいなと思います。何よりもカリキュラムですね、9年間のカリキュラムがあって、今回中身に触れることはできませんでしたが、大学の先生3名に専門的な立場から意見を聴いていられる、本町も今、算数、数学でやっていますけれども、それを拡大して理科、英語にもやっていきたいなと。義務教育でやる月から金までの時間って、時間割が決まっているんですね、英語がどれぐらいの時間やるとか、やることがどんどん増えていくんです。今の月から金までの中で何でもかんでもやるというわけにはいかないの、そのうち、土曜日をどうするか、という話もありますし、その辺は、白糠町でもおそらく話題になっていると思うんです。今のままの月から金の時間帯では、ほとんど空き時間がないくらい、ゆとりがないんですけれど、土曜日活用というのも考えなければならぬのではと、話を聴きながら思いました。それから、けん引役については、道から水谷主幹が来てもらっていますので、水谷主幹にめどが立つまでしてもらってですね、やっていかなければいけないなと思っています。以上です。</p>
白井委員長	<p>小林委員、何かございますか。</p>
小林委員	<p>感想みたいなものですが、前に研修会でみて、改めて施設の割り振りをみたのですが、認定子ども園は一緒なんですね。地図の違う小さいところが認定子ども園だと思っていたのですが、一緒だとわかって、9年間ではなくて、10年以上、ここに子どもがいるんだと、施設をつくっただけで、そういうことができるんだと、うらやましいというか。ここがこれから始まるわけですから、逆に言うと私たちはこれから、そういう取り組みの部分でまた、ここが始まって5、6年後にですね、ここを卒業した子達がどうなっているか、そういうことを検証しに行くには、うってつけのサンプル校になるのかなと考えました。サンプルと言ったら失礼ですけども、その部分の取り扱いについて、改めて一緒に考えなければいけないんだなということがわかりました。</p>
白井委員長	<p>他に何かございませんか。</p> <p>平成30年、開校予定ということで、年次ごとのスケジュールもできているようですから、また機会があれば、視察に訪れたいという学校の一つだ</p>

	<p>とっております。</p> <p>特になければ、質疑を打ち切り、報告第1号は原案のとおり承認してご異議ございませんか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p> <p>委員全員の賛成を得ましたので、報告第1号は原案のとおり承認致しました。</p> <p>以上で本委員会に付議されました案件の審議は終了致しました。</p>
<p>【閉会の宣言】</p> <p>白井委員長</p>	<p>平成27年第11回当別町教育委員会定例会を閉会致します。</p>
<p>白井委員長</p>	<p>(傍聴者退出)</p> <p>そのほか、事務局から報告等、お願いします。</p> <p>◆管理課長より説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度教育委員会点検・評価のスケジュールについて ・平成27年度当別町教育講演会について ・総合教育会議の開催について <p>◆社会教育課社会教育係長より説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こころのふれあい通学合宿 in 当別(第2部)について ・『親子 de 稲刈り!』について ・各種社会教育事業の実績について
<p>白井委員長</p>	<p>それぞれ報告、連絡等ありましたが、何かお聞きした点があれば、お受けしますが、いかがですか。</p> <p>小林委員。</p>
<p>小林委員</p>	<p>放課後学習会、土曜学習会、なんで参加者が伸びないんでしょうね。学校でできたら伸びるとか、そんなことはないですか。</p>
<p>白井委員長</p>	<p>社会教育係長。</p>
<p>社会教育係長</p>	<p>小学生につきましては、プレイハウスの中で行っていることもありまして、参加しやすい状況にあると思います。中学生については、コミュニティーセンターで行っておりますので、なかなか、まだ認知されていない部分があるのかもしれませんが。</p>
<p>白井委員長</p>	<p>ちなみに、この1名は同一人物ですか。</p> <p>社会教育係長。</p>

社会教育係長	そうです。
白井委員長	ほかに何か、ございませんか。 寺田委員。
寺田委員	点検・評価のスケジュールの中で10月9日と11月4日に教育委員学習会、これは決定ですか。
白井委員長	管理課長。
管理課長	一方的にスケジュールを策定させていただいております。まだ委員さんにはお諮りしておりませんので、改めまして、10月初旬と11月初旬の学習会については、日程調整させていただきたいと思っております。ただ、先ほどの事前の打合せの中では、委員さんのご都合も確認しながら、午後もしくは夕方の開催になるかと思っております。改めて日程の調整をさせていただきたいと思っております。
寺田委員	わかりました。
白井委員長	ほかに何かございませんか。 なければ、次回の定例会の日程ついて、お諮りしたいと思います。 今回は、10月28日14時から、ここ中会議室におきまして、第12回の定例会を開催させていただきたいと思っておりますので、それぞれご予定をお願い申し上げます。 以上で、終了させていただきます。お疲れ様でした。

閉会 午後2時45分